

施工時VEを条件とした発注が増えてきている。受注した後にVE提案を出して、コスト削減することを前提とした工事である。このため、建設会社ではVE研修が盛んに行われており、VEの専門家であるVEリーダーの資格を取得される方も増えてきた。

しかし、実際にVE提案の立案は容易ではない。設計時に、発注者と設計者が一生懸命考えた元設計を、

**直接工事費を低減する方法⑬**

さらにコスト低減する案は一朝一夕には出ないのだ。K社は、社員数30人程度の土木工事を得意とする建設会社である。K社社員の口癖は、「契約工期の20%短縮」である。とにかく工期を短縮させることを考えよ、というのがK社の社長の考えだ。

K社の社長は言う。「原価を下げる工夫をしるか、新しい工法を考えよ」とも、当社にはそんなこと

**「原価低減の決め手は工期短縮」**

代表取締役 サルタント 降旗 達生

を考えられるような器用な社員はいない。しかし、とにかく早く工事を完成させようと言った、社員の意思を統一することができて、その結果として原価を低減させることができるのです。」

型枠組立工期を短縮するために、パネル型枠を採用したり、鉄筋組立工期を短縮するために、鉄筋を地組みして、現地作業時間を短縮することなどはよく行われる。作業班のパーティを増加させることは常套手段だ。

これらの方法が現実的にコスト削減に繋がるかどうかは、原価計算をしないと分

からないことが多い。しかしK社では、とにかく工期が短縮する提案であればすぐに採用されるシステムだ。

「原価計算書を作成して、厳密にコスト比較することが重要であることは分かっています。しかし、社員はそれの行為を面倒くさく思い、改革することを思いとまっています。」

現在、K社の業績は良く、なにより社員はみな元気が